科目ナンバリング	U-LAS01 20012 SJ38				
授業科目名<英訳>	ヨーロッパ歴史・社会論基礎ゼミナールⅠ Introductory Seminar on European Social History I	担当者所属職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授　福元　健之		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	歴史・文明(各論)	使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・後期	曜時限	水5	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

今年度の演習では、林哲介『物理学者と読む西洋社会思想と科学の歴史』京都大学学術出版界、2024年を取りあげる。　本書の目的は、読者が「科学と社会思想の歩み、相互の関わりを中心に歴史を俯瞰することによって、現代が長い歴史の変化・発展の途上にあることをとらえ、そこから将来を展望する視座を得る」（はじめに、ii頁）ことにあり、最終的には、「技術を含む科学の真の目的」を読者なりに表現できるようになることが著者の期待である。

本演習では、本書を丁寧に読み、それに基づいて議論することを通して、「技術を含む科学の真の目的」を考察する。また、本書を補うジェンダー史的観点からみた科学の歴史に関する文献もテキストに取り上げ、適宜振り返りのための中間的考察の回もいれる。

演習の進め方としては、各章について担当者を決めて、レジュメを作成し、報告してもらうものとする。報告者は、論文の内容についてわかりやすく説明すると同時に、議論すべきと考えられる論点を提示する。

担当者以外の受講者も、必ず該当箇所を読んで上で参加し、報告者が挙げた論点について自分なりの考えを説明できるようにする。このことによって受講者は、本を読む、ネットで調べるというインプット行為を踏まえて、他者に説得的に（「論破」ではない）説明するアウトプット行為ができるようになるであろう。

[到達目標]

・科学の歴史と今後の課題に関する知識をえる
・テキストの内容を適切に理解できるようになる
・他者と学術的なコミュニケーションをとれるようになる

[授業計画と内容]

授業回数はフィードバックを含めて全15回とする。

1．イントロダクション

2．ジェンダー史的観点からみた科学史に関する文献を読む

3．「第1章　「科学の誕生」とはどういうことか」を読む

4．「第2章　古代ギリシャ哲学を振り返る」を読む

5．中間考察①

6．「第3章　科学誕生への予兆」を読む

7．「第4章　「科学」思想の成長」を読む

ヨーロッパ歴史・社会論基礎ゼミナールⅠ(2)へ続く↓↓↓

ヨーロッパ歴史・社会論基礎ゼミナールⅠ(2)

８．「第5章　人間論・社会論の革命」を読む

９．「第6章　「自由」と社会をめぐる思想の科学的成長」を読む

１０．中間考察②

１１．「第7章　近代科学と技術の連携の功罪」を読む

１２．「第8章　現代社会の「閉塞」と科学技術」を読む

１３．「第9章　民主主義の思想と科学文化の統合を目指して」を読む

１４．総合討論：いま「技術を含む科学の真の目的」とは何か？

１５．フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点100点（報告の内容40点、演習中の発言10点、第14回の小レポート50点）で評価する。なお、演習は出席が前提となる科目のため、無断での、あるいは理由なき欠席は認めない。２回までは大幅な減点とするが、３回以降は不合格（０点）とする。

[教科書]

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

・予習としては、毎回、決められた範囲を読むことが求められる。その際、疑問点は、自発的に図書館などで調べてくること。

・復習としては、討論の中で疑問に思ったことや、さらに知りたいと思ったことについて、自発的に図書館などで調べること。

[その他（オフィスアワー等）]

[主要授業科目（学部・学科名）]